

ティを体験し、アイスブレイクの大切さ、人にものごとを伝えるための手法を学んだ。

11:30 昼食 休憩

12:30 木育の理念

(KEM工房 煙山泰子)

受講生たちは木育の理念を理解することを目的に、木育や木育マイスターの目指すものについて学んだ。

日本の森には様々な樹種があり、それらが材になった時の違いを、五感で感じる方法が紹介された。

木で作られた様々な道具・おもちゃや、「木育の玉手箱」を使い、五感の重要性を体験し、木育のイメージを広げた。また、様々な木育事例やプログラムの実例が紹介され、受講生たちは木育の幅広さを認識した。

最後に木のマグネットづくりを行い、針葉樹と広葉樹の違い、加工のしやすさ、しにくさなどを体感した。



15:30 木と生きる～暮らしと産業～

(斉藤工業所)

森林の立木が木材になる過程を把握するために、旭川市の株式会社斉藤工業所の見学を行った。敷地内に積み上げられた木材は広葉樹、針葉樹問わず集められ、お客様のニーズに合わせて少ロットでも製材を行っているという説明があった。丸太が製材され板になっていく工程を見学し、製材された板がどのような用途で出荷されていくのか等の説明もあった。



(木と暮らしの工房)

「白樺プロジェクト」に参加している東川町の木と暮らしの工房を見学した。以前はタモやナラで家具を作っていたが、現在は道産のシラカバを使用した家具や小物などを製作している。シラカバの樹皮をひものように細く加工し、デザインとして家具や小物に活用するなど、シラカバを無駄なく使用していると説明があった。

この工場見学で原木が製材され板となり、加工されて製品になっていく一連の流れを知ることができた。



18:00 終了

◆2日目(9/10) 東川町 キトウシ森林公園 受講者数：24名

10:00 木とふれあい、木に学ぶ

(合同会社 machi cen 宮本 英樹)

キトウシ森林公園にて、北海道の主要10種の樹木について樹木図鑑を使いながら説明が行われた。森林内では、実際に木肌や葉に触れ、その感触や匂いを体感し、樹皮を観察するなど、受講生は五感を使って特徴を学んだ。また今後受講生が木育マイスターとして活動していくのに必要な知識の基礎をゲーム方式で学んだ。



12:00 昼食 休憩

13:00 木育はつながりのキーワード～木育プログラムの伝え方～

(合同会社 machi cen 宮本 英樹)

より効果的な伝え方や指導法を身につけるために、プログラムの伝え方についての講義がなされた。伝える手法には「伝授型」「双方向」「参加型」があること、伝える流れ、リズムが大切であることを学んだ。また、参加者に質問を繰り返し、それに応じて質問のレベルを上げ下げすることで最終的な目標にたどり着く、「質問力」の重要性を学んだ。



14:00 木育はつながりのキーワード～木育プログラムの伝え方～

(合同会社 machi cen 宮本 英樹)

プログラムは参加者を飽きさせない、興味を惹きつけ続けることや、参加者が主体であることの重要性についての説明があった。実際にフラフープやトランプなどの道具を用いてゲームを行い、プログラムの中で共通の課題を成功させるには、全体に指示を出すのではなく、個々に言葉をかけることが大切であることを学んでいた。



15:10 木と生きる～人の成長と木の関係～

(合同会社 machi cen 宮本 英樹)

人の成長と木の関係についての講義があった。子どもの成長には、子どもの「個性」と発達度合いに合わせた「課題」、「環境」の3つが重要であること、個人に対して適した課題設定を行い、環境を整え、子どもにとって「快」の状態を作ることが、成長の速度や深度に良い影響をもたらすことなどの説明により、木育マイスターの役割について学んだ。



17:20 終了

■第2回目 令和5年10月28日-10月29日

◆1日目 (10/28) 沼田町 幌新の森 受講者数：23名

10:00 木とふれあい、木に学ぶ

(合同会社 machi cen 宮本 英樹)

チームに分かれて、シラカバの樹高や樹齢を予想し、「何故そう思ったのか。」などの意見交換をした後、実際にチェーンソーで伐倒し、答え合わせを行った。伐倒の際には、どちらの方向に倒すのがよいのか、どのような切込を入れるのがよいかなど手法と安全管理について説明した。その後、伐採した木を玉切りし、参加者同士が協力して森林から運び出し、薪割りを行った。



11:00 木とふれあい、木に学ぶ

(KEM 工房 煙山 泰子)

実際に自分たちで木に触れて、ものづくりすることの楽しさを学ぶため、木工体験を行なった。

生木を加工するグリーンウッドワークの手法で、小さな家、ツリーを作った。自分で木を切り、削り、穴を空け、色を塗り、ものを作ることで、楽しさや達成感を、実体験として学んだ。



12:15 昼食 休憩

14:30 木育プログラムのつくり方

(合同会社 machi cen 宮本英樹)

受講生が参加した OJT の自己評価シートからキーワードを拾い上げ、全員でその体験を共有した。キーワードとして「ゲーム性」「多様性」「参加者に合わせた臨機応変さ」など、プログラムを実施する上で重要なことは参加者を飽きさせず興味を惹きつけ続けること、参加者が主体であることなどの講話があった。また、序・破・急を取り入れたプログラム作りが効果的であると説明があった。



16:45 木と生きる～森林ボランティア、レクリエーションの今～

(合同会社 machi cen 宮本英樹)

沼田町幌新の森を活動拠点としている NPO 法人そらち自然学校の取組について紹介があった。「森の暮らし型体験」をコンセプトにしており、訪れた人が体験する「馬や羊の餌やり」、「薪割」、「樹液採取」などを特別な体験と捉えるのではなく、「森の暮らし」の延長線上にあり、これらの体験が森の整備に繋がっているのだという説明があった。特に、馬を飼う事で、熊の出現が減ったという内容については、受講生も興味を持って聞いていた。



◆2日目(10/29) 沼田町 幌新の森 受講者数：23名

9:30 木と生きる～暮らしと産業～

(ノンフィクションライター 西川栄明)

木育マイスターとはどのような存在かについて講話があり、受講生は、マイスターとしての自覚を持つことや企画力の重要性について再認識していた。

次に木育プログラムの企画立案のヒントとして色々な事例の紹介があり、それから木材製品の歴史や特徴について理解するため、木の道具や木の文化、習慣などの歴史的背景についてスライドにより講義を受けた。

古来から樹種の特徴による適材適所を考えながら人と木が共存してきた経緯を受講生は学んでいた。



11:45 昼食 休憩

11:15 木と生きる～林産業の今～

(合同会社 machi cen 宮本英樹)

森で余暇を楽しむためのコンテンツとしてのテントサウナや森の執事(ネイチャーバトラー)の存在についてなどの説明があった。また、「森の暮らし」、「農園の暮らし」、「牧場の暮らし」を展開している大沼流山牧場での活動内容の説明もあり、木育と暮らし・産業の関連性について学習した。

受講生は、森林の活用方法として「空間利用」や「里山的利用」など、時勢に合わせた発想と着眼点が大切であることを学んでいた。



13:45 木育はつながりのキーワード～プログラムの作り方～

(合同会社 machi cen 宮本英樹)

木育プログラム、企画を組み立てる際に重要なコンセプト(主旨、ねらい)づくりについての講義だった。

自分の思いを形にして伝えるためにはマーケット分析が大切なことや、企画・実施・評価を繰り返してフィードバックしていくことで、よりよいプログラムができていくことを受講生は学んでいた。

これまでの講義で学んだ「体験活動」やプログラム作成に大切な「思い」「コンセプト」などの企画作りのアウトラインを活用して、受講生自身がこれから取り組みたい企画を提案し、そのテーマについてグループワークにより4つのプログラムの企画・発表を行った。



最後に各自の「木育宣言」を発表し、全4日間の研修のまとめとした。

18:00 終了



●OJTの実施

OJTはA日程研修、B日程研修ともに第1回目と第2回目の間に実施し、その経験を、後半の第2回目内の講義に活かせるようにした。道内全域（道央地域、道北地域、十勝地方、道東地域、道南地域）で計102件のOJTを設定し、そのうち41件のOJTに参加があった。OJT実施にあたっては、受け入れの担当者と調整を行い、研修生の学びに重点を置いたサポートを依頼した。

OJT当日は、プログラムの事前準備や打合せ、振り返りまでを、イベントを運営するマネジメント手法や実際のプログラム手法、注意点などを参加することによって体験的に学んだ。OJT終了後は、研修生が自己評価シートに自分の役割、評価・反省点、感想などを記入し、内容を振り返り、今後の自身の活動に活かせるようにした。

番号	日時	講師	場所	内容	受講者
1	7月12日	井上 亜紀代	ひかりの国 ようちえん	幼稚園の委託授業 自然遊び	尾添 香澄
2	7月16日	名内 隆 他	栗山町雨煙別 雨煙別小学校 コカ・コーラ 環境ハウス	薪割り・サウナ体験 札幌の大学生、栗山町内の若者と薪割り、薪材収集を通して、新環境教育と都市農村交流を図る。	田中 敦志
3	7月19日	田村 公平	アリオ札幌	木育フェア in アリオのクラフトブースの作業補助	黒坂 光
4	7月22日	高野 克也	藻南公園 (札幌市)	公園主催のイベントのプログラムを進行。虫取りや昆虫の観察のサポートがメインとなります。虫とりを通して公園や森などの環境に親しむ活動	佐藤 陽介
5	7月23日	新村 充	芦別市内	河川に降り、川遊び及び森林散策、日本遺産旧三井芦別鉄道炭山川橋梁下まで行き、下から眺める	佐藤 康季
6	7月23日	高野 克也	円山動物園	小学生放課後自然体験活動の補助	岩橋 弘
7	7月25日	丹羽 敬介	千代田小学校 (函館市)	函館市千代田小学校木育教室	北村 武文

8	7月29日	道場 祥子	三井アウトレット モール 札幌北広島	三井アウトレットモール札幌北 広島×北海道(協力) 木育プロジェクト夏休み企画 木育ワークショップ(経木プレ ートづくり)	石堂 光 檜 大樹
9	8月1日	鈴木 正樹他	株式会社ハルキ	JAL 主催 大学ゼミ研修 林 業・林産業とSDGs	石井 英紀 北崎 泰弘 上田 桂
10	8月1日	道場 祥子	ちいさなはっぱ ちいさなき 自然 あそび広場 (札幌市)	木育×自然あそび×食育 薪割り・木育クラフト・木登り・モ ルック・土遊び・水遊び・畑の 旬の堪能(野菜・ブルーベリ ー)・収穫・調理	山木 文
11	8月3日	高橋 芽久	沼田町 幌新の森	夏の DAYCAMP 木の名札製作、my 箸づくり	武岡 悠真
12	8月5日	写真絵本作家 小寺 卓矢	三井アウトレット モール 札幌北広島	三井アウトレットモール札幌北 広島×北海道(共催) 木育プロジェクト夏休み企画 木育ワークショップ(小さな森 林で写真撮影&写真絵本づく り)	久蔵 郁子 細目 浩明
13	8月6日	道場 祥子	三井アウトレット モール 札幌北広島	三井アウトレットモール札幌北 広島×北海道(協力) 木育プロジェクト夏休み企画 木育ワークショップ	細目 浩明
14	8月7日	写真絵本作家 小寺卓矢氏	ちいさなはっぱ ちいさなき 造形教室 (札幌市)	木育イベント プチ講座&近隣の公園へ撮 影&写真絵本づくり	久蔵 郁子
15	8月6日～ 9日	山本・木村・鈴 木	亀田交流プラ ザ・戸井・恵山・ 榎法華・南茅部・ サンリフレ函館	木育教室	6～9日 石井 英紀 8日参加 春澤 栞
16	8月10日	道場 祥子	ちいさなはっぱ ちいさなき 自然あそび広場 (札幌市)	木育×自然あそび×食育 薪割り・木育クラフト・木登り・モ ルック・土遊び・水遊び・畑の 旬の堪能(野菜・ブルーベリ ー)・収穫・調理	岡田 留美子 五十嵐 宏文

17	8月19日	大石 拓人	帯広の森 はぐくむ	森の寺子屋 小学生の自然体験活動 昆虫採集	熊野 直基
18	8月20日	名内 隆 他	栗山町雨煙別 雨煙別小学校 コカ・コーラ 環境ハウス	薪割り・サウナ体験 札幌の大学生、栗山町内の若者と薪割り、薪材収集を通して、新環境教育と都市農村交流を図る。	田中 敦志
19	8月21日	高野 克也	福井緑地	川遊びを通して自然の楽しみ方やリスクマネジメントを学ぶ	竹田 伴生
20	8月26日	萩原 寛暢	弟子屈町公民館	【弟子屈町子どもフェスティバル】 同実行委員会主催、町内の主に幼児を対象とした体験ブース各種。たき火を使ったブースを出展予定。	萩原 梢
21	8月31日	高野 克也	札幌まるやま 動物園	聴覚に障がいのあるデイサービスを対象にした川での活動プログラム。タモ網や箱メガネを使った生き物探し。雨天時はクラフトなどを事業所で指導します。	五十嵐 宏文
22	9月2日	高野 克也	留新ふれあいパーク(留萌市)	公園主催の小学生向け体験イベントのプログラムを進行する。森での虫捕りと染め物体験の予定。	高橋 立
23	9月2日	道場 祥子	自然遊び広場	自然体験活動の準備や進め方など運営を学ぶ。野菜の収穫体験	熊野 直基 久蔵 郁子 三好 人哉
24	9月16日	田村 公平	札幌市 赤レンガ広場	薪割り体験、木のオリジナルコースター作り体験	角藤 誠 中川 栞 三浦 莞 矢野 綾子
25	9月16日	石黒康太郎	当麻町 くるみなの庭	薪割り・焚火・トライポット作り・削り馬体験	有本 良典 平尾 光利

26	9月17日	田村 公平	札幌市 赤レンガ広場	薪割り体験、木のオリジナルコースター作り体験	伊藤 英典 久保 良太 松浦 実育 村上 創一朗
27	9月22日	佐野 愉架	神楽岡公園	木の実・葉っぱ観察&工作	宮津 清也 有本 良典
28	9月24日	新村充	芦別市内	ニジマス稚魚放流 林道散策 外で弁当	有本 良典
29	9月29日	大石 拓人	帯広の森 はぐくーむ	小学校の森林教室 間伐体験、樹木の測定など	及川 晃幸
30	9月30日	日月 伸	帯広の森 はぐくーむ	森の寺子屋 小学生の自然体験活動 木こり体験と草木染め	佐藤 潤一 及川 晃幸
31	10月4日 10月11日 10月18日	井上 亜紀代	ひかりの国 ようちえん	幼稚園の委託授業 自然遊び	(4日)上田融 (11日)久保恵 (18日) 伊藤あかり
32	10月4日	はぐくーむ スタッフ	帯広の森 はぐくーむ	幼児親子向けの自然体験 森のお散歩	久保 恵 及川 晃幸
33	10月14日	水口 郁恵	イオンモール釧 路昭和	木育マイスター道東支部による木育広場	宮越 みずき
34	10月14日	高野 克也	藻南公園	聴覚に障がいのあるダイサービスを対象にした公園での自然体験活動。薪割り、焚き火、簡単な調理などを予定。雨天時はクラフトなどを事業所で指導します。	丸田 善之
35	10月15日	日月 伸 大石 拓人	帯広の森 はぐくーむ	はぐくーむ秋まつり 森づくりに関するコンテンツをそろえた体験型のイベント (例)間伐、外来種駆除、森の散策などを予定	堀川 翼 鈴木 亜室 菅原 耕
36	10月21日	道場 祥子	三井アウトレット パーク	聴覚に障がいのあるダイサービスを対象にした公園での自	村田 真実

			札幌北広島	然体験活動。薪割り、焚き火、簡単な調理などを予定。雨天時はクラフトなどを事業所で指導します。	
37	10月22日	新村 充	芦別市内	元上川総合振興局富良野森林室職員によるキノコ講座(屋外)	有本 良典
38	10月23日	高野 克也 崎川 哲一	中島公園	大人を対象にしたガイドプログラム。秋の紅葉樹木を中心にガイド講師をお迎えし、散策します。	笠田 大介 久保 良太

【OJT 受講の様子（抜粋）】



●フォローアップ研修の実施

■令和5年 11月 11日-11月 12日

◆1日目 (11/11) 平取町 平取町立二風谷アイヌ文化博物館 他 受講者数：9名

12:30 開会式

12:50 フィールドワーク

～平取町二風谷アイヌ文化博物館見学

(学芸員 山本)

博物館の展示品は「生まれてから生涯を終えるまで」の順番で展示されており、それによってアイヌの生活用品についての解説があった。実際にどのような使い方をしていたのか、なぜこのような形をしているのかなど参加者からも質問があがっており、説明を受けながら展示品を見て回ることで、より木とともに生活するアイヌ文化への興味・理解が増したとの声があがった。



15:30 ワークショップ～アイヌ文様の木彫体験

(木彫家 高野 繁廣)

予めアイヌ文様がデザインされている木のコースターにどのように三角刀を入れていくのかを説明頂いた後、制作を開始した。特にウロコ彫りの部分では、参加者全員が苦戦しており、実際に体験することで、アイヌ文様がいかに緻密で細かい作業なのかを体感した。



13:30 ゲストスピーカーによる講演～木育ひとものごたり～

(木彫家 高野 繁廣)

東京都出身の高野氏が平取町二風谷に辿り着き、貝澤守幸氏の弟子となり、アイヌ文化の伝承者として木彫家になるまでのお話をいただいた。

アイヌ文化の伝承者として新しいものを作り出すよりも、永い歴史を持つアイヌ文化に忠実に、彼らが使ってきたモノを再現し、多くの方に知ってもらうことが重要と考えているというお話が印象的であった。

また、最後に高野氏が制作したトンコリを演奏していただき、受講生も体験していた。



17:30 終了

◆2日目(11/12) 平取町 イオル文化交流センター他

受講者数：8名

9:00 フィールドワーク～アベツ森林散策

(北ノ森自然伝習所 三木 昇)

前日の宿泊施設周辺で見つけた木や枝の説明から始まり、アイヌ文化と木や森の関係性についての講話があった。国有林内では、博物館で見学したアイヌの生活用品の原料となる木の紹介や国有林内で取り組んでいる活動についてご紹介いただいた。

一方的な説明だけではなく、参加者に問いかけ、想像させ、気づきを与えるなどガイドを行う上での技法についても学びがあった。



12:00 昼食

13:30 木育マイスターミーティング

2回目の木育マイスターミーティングと同時開催とし、オンラインで構成員の方々と繋いだ。1回目に提案された課題を更に検討した。

フォローアップ研修に参加されている受講生からも新しい提案や違う側面からの意見もあり、より具体的な解決の糸口を見つけるきっかけともなった。



15:30 意見交換会

(合同会社 machi cen 宮本 英樹)

参加者が現在の取組の中で解決したい事や課題などを発表し、情報の共有を図った。

最後に2日間の研修の感想を発表し、今後の木育活動への連携へのきっかけ作りの場とした。



16:30 修了式

●木育マイスターミーティングの実施

■第1回目木育マイスターミーティング

実施年月日：令和5年9月11日（月）

会場：札幌市中央区大通西2丁目5番地7陶管ビル4階 あいあい会議室 大通

参加者：9名

鈴木正樹（1期）、大石拓人（2期）、秋山恵美子（3期）、柿原久仁佳（6期）、
崎川哲一（8期）、原弘治（8期）、八木一馬（9期）、大滝英治（11期）、道場祥子（11期）

内容：自己紹介及び活動内容の紹介をしていただき、意見交換会を行った。各マイスターに課題や提案を付箋に書き出してもらい、グルーピングをしながらまとめていった。抽出された課題として、①ワークショップで使う材の入手について②マッチングと使用ツールについて③地域ごとのマイスターの人数の偏りについて④情報共有の難しさについて⑤本部機能について。などが挙げられた。

■第2回目木育マイスターミーティング

実施年月日：令和5年11月12日（日）

会場：沙流郡平取町二風谷228 イオル文化交流センター

参加者：6名

鈴木正樹（1期）、秋山恵美子（3期）、柿原久仁佳（6期）、原弘治（8期）、八木一馬（9期）、
道場祥子（11期）

内容：お互いの近況報告をした後、1回目のミーティングで抽出された課題と北海道からの議案として「モチベーションの維持」と「マイスターの人数が少ない地域での活動促進」について話し合いを行った。まとめとして、①モチベーションを維持するために、交流の場を設ける。年間を通してマイスター向けの研修、OJTをマイスターが実施し、集大成として年1回交流イベント（発表会）を実施するのがよいのではないか。②マイスターが少人数の地域に対しては、当面は他地域のマイスターが応援に行く③情報発信・共有のツールはメーリングリストではなく、新しいツール（SlackやFB、インスタ）が望ましい（課題として誰が運営するのか）④本部機能（総合窓口）の存在は必要である（課題としてどこに、誰が運営するのか）という内容であった。

■第3回目木育マイスターミーティング

実施年月日：令和6年2月7日（水）

会場：オンライン（Zoom利用）

参加者：8名

日月伸（2期）、萩原寛暢（1期）、秋山恵美子（3期）、柿原久仁佳（6期）、
崎川哲一（8期）、原弘治（8期）、八木一馬（9期）、道場祥子（11期）

内容：お互いの近況報告をした後、前回までのミーティングの振り返りを行った。前回までに抽出された課題の対応について北海道から提案があり、更に話し合いを行った。話し合いの結果として、①既存のOJTに現役マイスターも参加を可能とし、交流及び情報交換の場として活用する②情報発信の際は共通のワードにハッシュタグをつけて情報を集約しやすいようにする③モチベーションの確認をするために、年に1

度対象のマイスター全員に活動実施の意思確認を行うこととする④本部の役割が、情報発信・集約・提供がなされるプラットフォーム的な窓口として必要であるとわかった。具体的な体制作りについては次年度以降の課題として持ち越しとする。

●まとめ

・受講人数について

令和5年度木育マイスター育成研修は、令和2年～3年まで定員数を半数にしていた影響もあり倍率が高くなり、今年度は研修開催を2度に増やしたものの、定員30名の約3倍92名の申し込みがあったため定員を若干名増やした。A日程、B日程ともに、研修当日、事情により急遽欠席する受講生があったが、A日程、B日程合わせて46名の受講生が全てのカリキュラムに参加し、研修カリキュラムを修了した。

令和5年度木育マイスターフォローアップ研修については、定員数を30名に設定した。11名の申し込みがあったが、急遽2名の受講生が不参加となり、また、研修2日目に1名がやむを得ず欠席となったため8名の受講生で研修を終えた。

・会場について

令和5年度木育マイスター育成研修の会場については、A日程は、工場見学が可能な工場が近郊にあり、林業体験の際に自由に伐倒ができる森（イコロの森）や北海道の樹種を見学できる森林（苫小牧北大研究林）も周辺にあり、かつ受講生が宿泊先の確保が容易な場所で検討し、全道各地から参加しやすいよう道央地域にあるイコロの森（苫小牧市）で実施した。イコロの森内の研修会場は国道から入り組んだ道を進んだ先にあるため、一部の受講生からは場所がわかりづらかったとの声もあったが、研修施設及び周辺の環境については高評価であった。

B日程においては、A日程の会場が道央地区であり、また北海道立北の森づくり専門学院の生徒の受講もあったことから旭川市周辺を研修会場とした。土日開催のため、土曜日に見学ができる工場が旭川市周辺にあったことも選定の要因となった。2回目の研修会場である沼田町幌新の森は、立木の伐倒が可能であること、森をフィールドとしたNPO法人そらち自然学校の取組を体験できることから研修場所とした。

フォローアップ研修については、「木と生きてきた」木育人の生き方に触れることで、木育マイスターとしての目的を見つめ直すことができるよう、アイヌ工芸家の高野繁廣氏の活動拠点である平取町二風谷を開催場所として選定した。ここは博物館や国立公園など周辺にアイヌ文化を見学・体験できる場所が点在しており、国有林以外は徒歩で施設間移動が可能であったため、研修時間を十分確保することができた。ただ、平取町までの公共交通機関が十分でないため、マイカー移動が必須となり、車移動ができない参加者には不便ではあった。

木育マイスターミーティングについては、1回目は遠方からのマイスターも参加しやすいよう、交通機関が充実している札幌市内で開催した。2回目については、フォローアップ研修と同時開催にし、現地参加が難しいマイスターにはオンラインによる参加をお願いした。3回目については、2月開催のため悪天候時に移動困難な状況も加味し、オンラインによる開催とした。

・研修時期について

木育マイスター育成研修は、今年度から研修回数が増えたことにより、両日程で十分な OJT の受講期間を確保するため、A 日程 1 回目の研修を 7 月初旬に設定し、2 回目の研修を 9 月初旬とした。B 日程においては、例年通り第 1 回目は 9 月、第 2 回目は 10 月に実施した。OJT は各日程の 1 回目と 2 回目の間（7 月上旬～9 月上旬、9 月上旬～10 月下旬）に行い、OJT で経験したことを第 2 回目研修で活かせるようにしたことで、第 2 回目研修の際に受講生の理解がより深まったと思われる。

フォローアップ研修は、OJT との日程が重ならないように育成研修終了後に実施したため 11 月中旬開催となったが、今年度は日高地方での開催で、かつ天候も良かったため、それほど寒さは感じなかったが、今後は、開催場所に応じて開催時期を検討する必要がある。

木育マイスターミーティングは年度内 3 回実施するにあたり、2 回目をフォローアップ研修と同時開催（11 月）することを軸とし、構成員が意見をまとめるのにちょうどよい間隔になるよう 1 回目と 3 回目の開催月を検討し、各構成員が参加しやすい月（7 月と 2 月）で実施した。

・カリキュラム・スケジュールについて

研修終了後に受講生から取ったアンケートによると、カリキュラムについては概ね満足を得られている。講座の時間もちょうどいいと答えている方が多く見受けられた。

・今後の木育マイスター育成研修・フォローアップ研修について

木育マイスター育成研修は平成 22 年（2009 年）度から実施されているが、2009 年～2022 年度の 13 期で合計 323 名の木育マイスターが誕生した。今年度、新たに 46 名のマイスターが加わり、合計 369 名となった。

木育マイスター 1～13 期生は、木育マイスターメーリングリスト内で情報交換、意見交換などを行い、交流が進んでいる。また、今年度研修の OJT の受入先となってもらい、各人の地域・会社などで木育プログラムを行ったり、各地域のマイスターが集まって木育フェスタを実施したりと、それぞれの地域・立場で活躍中である。今年度の 14 期生も先輩マイスターに続き、活躍が期待される。

今年度の木育マイスター育成研修では 92 名の申し込みがあり、年々受講希望者は増加傾向にあり、この研修の受講希望者は今後も増えると予想される。また、応募の際のレポートには皆、木育にかける思いや、木育マイスターとなった暁にやりたいことが多く記載されており、北海道の木育の展開が期待される。

また、令和元年度より、木育マイスターを対象としたフォローアップ研修を開催している。今年度は、現地参加 9 名のうち 8 名の木育マイスターが 2 日間にわたる全カリキュラムを修了した。各参加者とも、今後の木育マイスターとしての活動を円滑に進めるために、精力的に研修を受講していた姿が印象的であった。また、マイスター同士の交流も深まり、同期以外のマイスターとも活動を共にしていけるネットワークが構築されたと思われる。

最後に、今後も北海道の木育の普及を推進していくためには、この 14 年間の研修で誕生した木育マイスター同士のネットワークをより強固なものとし、協力しあって木育の普及に取り組んでいくことが必要である。北海道の木育を進めていくためにも、本研修は継続して行われる必要があり、より多くの方に機会と場が提供されるべきと考える。

以 上